



教 育 目 標 : 正しい判断 たくましい実行
年 度 の 重 点 : 自分で学びの舵をとる力の育成
生徒会スローガン : 一人一人が居心地のよい島中をつくろう!

電話:0256-33-2317 ホームページ : <https://www.city.sanjo.niigata.jp/section/ojimachu/>



絆 ～Let's team up for victory～

校長 佐々木 善男

表題に掲げた「絆 ～Let's team up for victory～」は、今年度の体育祭スローガンです。改めて確かめると、「team up」は、団結、協力、連携という意味に訳されるそうです。よって文全体は「勝利のためにチーム団結して頑張ろう」という意味に捉えられます。しかし、その前に「絆」の一字があります。「絆」は、人と人あるいは集団同士を結び付ける心理的・社会的なつながりを指す言葉です。古くは「馬や犬などをつなぎとめるための皮ひも」のことを指す言葉だったようですが、現代では、家族愛や友情、仲間意識など肯定的な結び付きを示す語として用いられています。単なる物理的な結び付きではなく、互いを思いやり、支え合う関係性そのものを強調する点が特徴です。

つまり、このスローガンには、チームが団結して勝利を目指すことだけに留まらず、競い合いながらも互いに頑張りを称え合い認め合って、赤軍・白軍の枠を超えた心の通い合いや結び付きを得ようという思いが込められていると捉えることができます。勝利を目指す熱さと、根底にある心の温かみを感じる素晴らしいスローガンだと思います。

1学期から始まっている体育祭リーダー活動は、夏休み期間も行われました。スローガンの下、各自のモチベーションを生かしながら協力して活動に取り組む姿には、頼もしさを感じます。9月20日(土)の「緑風体育祭」では、また違った生徒の成長の一端が見られるものと今から楽しみです。そして、皆様にも生徒の頑張る様子や成長した姿を見ていただけることを喜びに感じます。子供たちは、自分たちの頑張りが価値付けられることにより、心が満たされ成長できます。次への活力も湧きます。温かい言葉掛けをお願いします。

写真

残暑厳しい2学期のスタートとなりました。あまりの暑さに気が滅入りそうになりますが、生徒の明るい表情や楽しそうに会話する様子などを見ると、こちらまで元気になります。しばらく暑さは続くことが見込まれます。健康と安全には、十分配慮しながら教育活動を進めてまいります。また、長期休業明けは心身ともに不安定になりやすい時期でもあります。子供たちの様子に十分留意しながら2学期をスタートしたいと思います。保護者、地域の皆様におかれましては、引き続き当校の教育活動にご協力くださいますようお願いいたします。

夏休みに行われた活動から

夏休み期間中も、様々な事業が行われ、学校の代表として参加した生徒がいます。参加した感想や報告、発表内容などを紹介します。なお、このページに掲載した報告内容は、参加者の発表を聞いて校長がまとめたものですので、実際の発表とは言葉遣いや文意に多少の違いがあります。ご了承ください。

<広島平和式典派遣事業>

初めて広島を訪れた。1945年8月6日に原子爆弾を落とされたことは知っていたが、資料館の展示を見て、その悲惨さを実感できた。広島平和記念資料館には、原爆投下当時の街や溶けたガラス、ぼろぼろになった服などが展示されており、その様子から爆弾の威力が感じられた。当時の人たちが突然日常を奪われてから80年。様々な人が訪れていたが、外国の人にも知ってもらうことが大事だと思う。世界では、現在でも、戦争や紛争、核兵器の開発などが行われている。もし第3次世界大戦が起きれば、人類は滅亡するかもしれないとも言われている。学びを次の時代へつなげていくことが必要だと考える。



広島を訪れて、平和について学ぶことができたほかにも、広島城や路面電車が走る様子などを見たり、広島焼きなどのおいしい食べ物を味わったり、広島の魅力を感じた。心に残るよい機会をいただいた。

<北方領土現地視察中学生リーダー研修会>

標津サーモン科学館や別海展望塔、根室市歴史と自然の資料館などを訪れ、その土地の歴史や自然などについて学んだ。見学の中で、ドクターフィッシュに手の角質を食べてもらう楽しい体験もできた。活動を進めながら、北方領土について学んだ。北方領土は日本固有の領土であるが、現在はロシアに占拠されている状態が続いていることを知った。終戦時には、17,000人が暮らしていたが、現在は0人となっていることも分かった。



北方領土の返還のためにわたしたちにできることは、

「見ること・知ること・伝えること」

だと教わった。早く返ってほしいというお話も聞いた。今回学んだことをほかの人にも伝えていきたい。

今回の派遣事業を通して、参加したみなさんは、現地を生で見て、肌で感じることができました。そこから学ぶものは大きかったと思います。また、今回の報告によって、全校生徒の関心も高まったものと思います。参加者のみなさん、ありがとうございました。

＜私の主張 三条地域地区大会＞ 奨励賞を受賞

言葉の魔法～当たり前を失った時に気付いたこと～

三条市立大島中学校 三年 山崎 真里

当たり前だと思っていた日常が止まってしまった。骨折してしまったのだ。

自転車で下校しているときに転んでしまった。私は生まれつき骨が弱い病気で、何度も骨折を繰り返していた。転んだ瞬間、腕に走った感覚で骨折したと感じた。事故の知らせを聞いた母が来るまでの時間がとても長く感じた。よりによって利き手の右手だ。「勉強や卓球部の活動はどうしたらいいんだろう…。」病院に着いた私は待合室で考えた。「今回も手術かな…。」だんだん不安な気持ちが襲ってきて、涙があふれてきた。

そんなとき、隣りにいた見ず知らずの方が、優しく声をかけてくれた。「大丈夫？替われるものなら替わってあげたいよ。」初めて会った方なのに、その言葉はまるで魔法のように温かくて、先ほどまで重かった心がふっと軽くなるのを感じた。痛みが消えたわけでも、状況が変わったわけでもない。でも誰かが私のことを思って、声をかけてくれたという事実が、私のことを救ってくれた。

家に帰ると、友達からも「大丈夫？何か困ったことがあったら言ってね。」と温かいメッセージがいくつも届いていた。学校生活のことも不安だったので、友達の言葉でまた心が救われ、これまで以上に周りから支えられていることを実感した。

私はこれまで、こんな風に周りの人に優しい声をかけていただろうか。考えてみると、当たり前に過ぎる日常の中で、そんなことを考えることもないまま、何気なく過ごしていたのかもしれない。

家族に対してもそうだ。「今日、学校どうだった？」などと声をかけられても、疲れていると適当に流してしまうこともあった。もしかして、家族はこれまでの私の体のことを気かけ、無事に学校生活を送れているかどうかを知りたくて、声をかけてくれていたのかもしれない…。こんなことになって、改めて「相手を思いやって声をかけること」の大切さに気付くことができた。

このことがあってから、私はこれまで以上に周りの人に目を向け、必要なときには「言葉をかける」ことを意識しようと思った。骨折の治療はやはり長引いた。授業のノートは利き手ではない左手で書くことで、時間がかかった。卓球部の活動でも、左手でラケットを使うことはかろうじてできたが、サーブの玉が出せない。そんなとき、いつも私の周りには友達をサポートや「大丈夫？」という言葉があった。家族のサポートもそうだ。髪の毛が洗いづらい、ご飯が食べづらい。でもそんな私に対して温かい声をかけてくれたり、さりげないサポートをしてくれたりした。

そんな周りのみんなに私は何ができるのだろう。それは「ありがとう」の感謝の気持ちを言葉にして伝えることだと思う。ただその一言を相手に伝えることで笑顔が返ってくる。その笑顔を見て私の心も温くなる。この当たり前のコミュニケーションがみなさんは「自分はできている。」と自信をもって言えるだろうか。

この夏、中学校最後の地区大会を迎えた。これまでの集大成。私は負けてしまったが、悔いは残ってない。そんな中、勝ち進んでいった親友がいる。県大会出場決定戦に出場する彼女を支えたいと思い、自らサポーターに志願した。あの時、辛かった自分が声をかけられた経験があることで今の私がある。私は親友の県大会出場を願ってサポートに徹した。そして彼女は勝ち抜き、県大会に出場。「応援してくれてありがとね。嬉しかったよ。」この彼女の言葉に私もまた、嬉しくなった。

優しい言葉はまるで魔法のように辛い気持ちを和らげてくれる。次は私が助けてあげられるような存在になりたいと思う。たとえそれが小さな一言や行動でも、その人を救う魔法となると信じているからだ。

あの時の見知らぬ方の言葉や友達、家族からの言葉は今でも私の心に宝物として残り続けている。それは私に勇気を与え、前を向かせてくれた魔法の言葉だ。

言葉の魔法は、目には見えないけれど確かに存在し、私の心を救ってくれている。言葉は人と人をつなぐ。時には見知らぬ人同士をつないでくれる。支え合う力をもっている。私はこれからもその力を大切にして誰かの心を温かくできる人でありたい。

■□■ 9月学校行事予定 ■□■

日	曜	校内行事	完全 下校	バス	部活動	日	曜	校内行事	完全 下校	バス	部活動
1	月	5限授業	15:10 16:40	15:15 16:45	○	16	火	おおじまおはようDay	16:10 17:45	—	○
2	火	食育授業（1年） 栄養士給食訪問（2年）	16:10 17:45	16:15 17:50	○	17	水	5限授業	14:55	—	×
3	水	専門委員会	14:55	15:00	×	18	木	生活アンケート	16:10 17:45	—	○
4	木	生活アンケート 5限授業 英検IBA PTA三役会	15:10 16:40	15:15 16:45	○	19	金	体育祭予行練習 体育祭前日準備	14:50	—	×
5	金	体育祭練習開始	15:35 16:40	15:40 16:45	○	20	土	緑風体育祭 （延期の場合3限授業 11:45下校）	12:45 （11:45）	—	×
6	土					21	日	秋の全国交通安全運動 （9月30日まで）			
7	日					22	月	体育祭予備日 弁当持参給食あり 5限授業	15:10 16:40	—	×
8	月	教育相談	16:30 17:45	16:35 17:50	○	23	火	秋分の日			
9	火		16:10 17:45	16:15 17:50	○	24	水	ライオンズクラブ チャレンジ教室 5限授業	14:55	—	×
10	水	5限授業 専門委員会（体育祭打 ち合わせ）	15:30	15:35	×	25	木	生活アンケート 新人大会激励会	16:10 17:45	—	○
11	木	生活アンケート おはようDay事前指導	16:10 17:45	16:15 17:50	○	26	金	9月20日の振替休業日			
12	金	夏季スクールバス 最終日 PTA役員会	15:25 16:40	15:30 16:45	○	27	土				
13	土					28	日				
14	日					29	月	ブラボーDay前日指導	15:25 16:40	—	○
15	月	敬老の日				30	火	おおじまブラボーDay （午後）	15:45 17:00	—	○

今年の夏、セミの声が少なく感じるのは私だけでしょうか。平成27年にも同じことを感じたことを思い出します。当時の学校職員に尋ねると1割程度がそう感じるとのことでした。同年、ある会合で参加者に投げかけると7割ほどが同感だとのことでした。割合は全く違いますが、共通していることがありました。それは、同感と答えた人以外は、私の感じたことを否定するのではなく、「分からない」という答えが返ってきたことです。誰しもが耳にしているはずのセミの声ですが、気に留めている人と特に気にしていない人とでは聞こえ方が違うのかもしれません。

見ているつもりでも見えていない、聞いているつもりでも聞いていないのは、気に留めて見聞きしているかどうかなのかもしれません。我々教職員も、ご家庭でも、子供たちの様子は、しっかり気に留めて見ていきたいものです。

ちなみに、大島中の職員玄関付近にある扉に描かれている有名な武将は誰だか分かりますか？
答えは、ぜひお子さんに聞いてみてください。